

調布飛行場の「安全」に対する取組 (保安・運航支援)

- 安全運航を支える警備・消防・航空機の運航に関する情報提供
・ 気象観測の各業務を紹介します。

警備・消防業務



- 24時間体制で飛行場内の巡回警備を実施
- 旅客ターミナルの警戒警備、不審者立入の警戒、定期便搭乗時や到着時の立哨警備、航空機の地上走行に影響する支障物の確認・除去等を実施

- 定期便の離発着時には消防担当が立哨で警戒・出動待機し、事故等が発生した場合は初期消火や救命救助を迅速に実施
- 通報から3分以内で現場到着できるように日常の訓練と毎日の点検を実施



航空機に対する情報提供業務

- 調布飛行場を離着陸する航空機に対し、無線で風速、風向、滑走路の使用状況、周辺の航空機の飛来状況、着陸の優先順位などの情報を提供
- 約20mの高さがある管制塔からの視点を活かし、落雷、ゲリラ豪雨、濃霧、雲が急激に低くなるなど、急激に天候が悪化した場合、離着陸機や周辺を飛行する航空機に気象注意情報を提供
- 管制官に代わる存在として管制官と同等の情報を提供し、航空機運航の安全確保に努める



気象観測業務

- 操縦士が離陸前に出発地・飛行経路上・目的地の気象情報を確認し、飛行の可否や適切なルートを判断することは、安全運航上、非常に重要
- 運用時間内には1時間に1回、悪天候時には随時『風向・風速・視程・気温・天候・雨の強さ・雲の高さ・雲の密度・気圧』等の気象状況を機器で観測し、かつ担当者が目視で周囲の状況を確認してデータを補正したうえで、操縦士や運航管理者等へ情報を提供

